コラム ～ 市民参画 と ユニバーサルデザイン ～

① 市民みんなで「公共」のあり方を見直そう

市民全員の財産である公共施設の活用や再編を進めるためには市民の皆様、一人ひとりがサービスの主体や受け手として取組に参画いただくことが重要です。

今後、本プランに基づき、用途ごとや地域ごとで様々なサービスの組み換えや多機能化など、あり方の見直しを進めていきます。

公共施設再編の取組は単なる建物の問題ではなく、一人ひとりがつながり、集まり、活動する「場づくり」を捉え直し、デザインし直す取組です。

新型コロナウイルスの影響により「集まる」ことの形が変わってきています。この機会に、人と人との「つながり（＝コミュニティ）」や「つながる場（＝公共）」のあり方について一緒に考えていきましょう。

本プラン策定にご協力いただいた有識者コメント

「施設整備」は目的ではなく「手段」です。どんな建物を建てるか以上にそこで“誰”が“何を”するのか（＝コト）が重要です。その意味で「公共的な場」は市の施設だけではないはずです。よりよい活動の場を一緒に考え、創り出していきましょう。

公立大学法人 前橋工科大学
准教授　堤　洋樹之 氏

前橋工科大学工学部建築学科 准教授 博士（工学）。専門は建築経済、建築生産、建築構法。建物の長寿命化の実現に向け、ソフト・ハードの両面から研究を行う。「特定非営利活動法人リデザインマネジメント研究所」を設立し、多くの自治体を支援。

コロナ禍でオンライン会議などＩＣＴの活用が進んでいます。
この状況を活かし、デジタルを上手に活用して、若い世代の方々も参加しやすい環境づくりや業務の効率化、柔軟な組織のあり方などについて、今後も考えていきましょう。

一般社団法人 コード・フォー・ジャパン
コンサルタント　市川 博之 氏

ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズでコンサルタントを経て、現在 Code for Japan に勤めながら２つの会社を経営。内閣官房オープンデータ伝道師に任命。総務省の地域情報化アドバイザーで全国の自治体に研修を行う。

② 市民ファシリテーターの活躍！！

本プランの策定にあたり実施した地区別ワークショップ（未来デザインワークショップ）ではグループごとの意見交換の進行やまとめ役として、研修を受けた市民の方に「市民ファシリテーター」として参加いただきました。

こうした取り組みを通じ、市民自らが対話の場をコーディネートし、多様な市民の声をまとめ、市の施策に反映していく仕組みづくりにつなげていきます。

市民ファシリテーターのコメント

令和元年度の「未来デザインワークショップ」では、将来に向けた明るい意見を沢山聞くことができ、とても楽しく参加することができました。これからも引き続き、「新たな公共の場」のあり方を考えながら、皆さんと一緒に笑顔が溢れるまちづくりを目指していきたいと思います。

市民ファシリテーター
佐藤 絵美 さん

③ 「ユニバーサルデザイン」を広げよう

誰もが気軽に訪れ、使いやすい施設としていくため、市では「ユニバーサルデザイン（※）」の考え方に基づき、施設や設備のバリアフリー化といったハード面の取組だけでなく、相手を尊重し、理解し、協力・支え合う地域づくりや仕組みづくりなどのソフト面の取組も推進しています。

本プランの推進にあたっても、年齢や性別、障がいや病気の有無、国籍などの違いによらず、多くの当事者の方の声をお聴きしながら取組を進めてまいります。

（※）ユニバーサルデザイン

はじめから、すべての人の多様なニーズを考慮し、年齢、性別、身体的能力、言語などの違いにかかわらず、すべての人にとって安全・安心で利用しやすいように、建物や製品をつくったり、情報やサービスなどを提供する考え方のこと

本市では毎年「ユニバーサルデザイン講演会」を開催し、障がいのある方や性的マイノリティの方、外国籍の方など様々な当事者の方の声をお聞きしながら様々な施策にユニバーサルデザインを取り入れています。